opusdei.org

年間第8週・土曜日 69. 使徒職をする権利 と義務

一全信者の使徒職をする権利と義務は、キリストと一致している事に由来する。一他者の生活に〈入り込む〉ことを邪魔する口実を捨て去る。一イエスは今、初代の弟子たちを送り出されたように私たちを送り出される。

2024/06/01

年間第8週・土曜日

69. 使徒職をする権利と義務

- 一全信者の使徒職をする権利と義務は、キリストと一致している事に由来する。
- 一 他者の生活に〈入り込む〉ことを 邪魔する口実を捨て去る。
- 一イエスは今、初代の弟子たちを送り出されたように私たちを送り出される。

69.1 一人ひとりのキリスト者の使徒 職をする権利と義務はキリストとの 一致から生じる

神殿の境内を歩いておられると、祭司長と律法学者たちがイエスのところにやって来て尋ねました。「何の権威でこのようなことをしているのか。誰がそうする権威を与えたの

か」¹。主は、その質問についに答えませんでした。もしかしたら、彼らが聞く耳を持っていなかったからかもしれません。

しかし、私たちは、キリストが宇宙 の主権者、主であり、主においてす べてのものが創られ、天にあるもの も地にあるものも、見えるものも見 えないものも、万物は御子によって 御子のために創られましたことを 知っています。十字架の血によって 平和を打ちたて、万物をただ御子に よってご自分と和解させるために 2。 宇宙にあるものでキリストの主 権と平和な支配の外にあるものは何 もありません。すべての力がキリス トに与えられ、主には、福音を説 き、すべての人とすべての国に救い をもたらす、天と地の力の豊かさが あります。

主ご自身が私たちを、使命を共に し、他の人々の生活に介入するよう

に招きました。地上で幸福であり、 天国に到達することを学ぶために。 そのために人間は創造されたので す。私たちは、主の王国、「真理と 生命の王国、聖性と恩恵の王国、正 義の王国、愛と平和の王国」³を広 めるための命令を受けました。「私 たちは世の中に生きる者の傍を通り 過ぎるキリストです | ⁴。キリスト から、社会機構の只中でどのように 人々に仕え、彼らを助けるかを学ば なければなりません。他の人々への 奉仕に生涯を費やすために、キリス ト者の召命以外の肩書は必要ありま せん。私たちはこの召命を洗礼で授 かりましたが、それ自体が動機その ものになります。「信徒は、使徒職 をする権利と義務を、頭であるキリ ストとの一致から得ます。洗礼に よってキリストの神秘体に加えら れ、堅信によって聖霊の力に強めら れ、彼らは、主ご自身に使徒職を委 託されます| 5。私たちの責任と使 命はキリストから生じます。

私たちには他の人々の生活に〈介入 する〉権利があります。キリストの 牛命はすべての人々に共有されるか らです。一人のメンバーが病気に なったり、弱ったり、あるいは死ん だりするなら、身体全体が影響を受 けます。キリストは苦しみ、また、 キリストの神秘体の健康な者も同様 に苦しみます。「すべての人はキリ ストにおいて一つである」から⁶、 お互いに非常に異なる私たちすべて の者は、キリストにおいて一つであ り、愛はそのとき生命の一部になり ます。他の人々の生活に影響を与え る権利は、個人的な状況がどんなに 異なっていても、それぞれのキリス ト者の喜ぶべき義務になります。主 は〈私たちの生活を複雑にするため に〉許可を求めたりなさいません。 勝手に入り込んで来られます。それ だけなのです⁷。 主の弟子になりた いと思う私たちは、道に沿って旅す る人々に同じようにすべきです。こ の人々の霊魂を神に引き寄せるため

に、他の機会を自分から作り出すだけでなく、生じる機会を活用すべきです。彼らが良い本を読むように提案したり、忠告をしたり、告解に行く必要性についてはっきり言ったり、あるいは他のやり方で人々に奉仕することができるかもしれません。

69.2 他の人々の生活に〈入り込む〉 のを妨げる弁解を退けるべき

時には、私たちの振舞いを目撃する 人ながこうかも知れませんのませんの を主せんの を強利があって、他の はがななないまが、にかってかりです。 でするでするですがないですがない。 でするでするですがない。 ででするでするでするです。 ででするないでは、 ででいるないでは、 ででいるでは、 ででいるでは、 ででいるでは、 ででいるでは、 ででいるでは、 ででいるでします。 ででいるでします。 でいるでしょう。 「キリストで できるでしょう。 「キリストで 身が私に言い、私に頼んでいます』 と。『収穫は多いが働き手が少な い。だから、収穫のために働き手を 送ってくださるように、収穫の主に 願いなさい』(マタイ9・37-38)。楽な道をとってはいけない。 私は役に立たないとか、もっと適し た人がすでにいるとか、そういう仕 事は自分の性に合わないなどと身勝 手なことを言わないで欲しい。キリ ストはすべての人々に、キリスト信 者一人ひとりに、願っておられま す。年齢や健康、仕事などを理由 に、使徒職を免除されている人など いません。言い逃れの余地はないの です。使徒職の成果をあげるか、そ れとも、信仰を空しく不毛にする かし8、教会は勇気づけ、キリスト を知らせるように、実際に私たちに 要求しています。生涯の喜びのある 仕事に対する弁解や言い訳は役に立 ちません。「若者は、自分の仲間の うちに使徒職の努力を集中して、他 の若い人々に直接使徒職を進める最

初の人にならなければなりません。 子どもたちにも同じように、しなく てはならない自らの仕事がありま す。彼らはその能力に応じて、仲間 の間でキリストの真実の生きた証人 だからです | °。 若い人々、子ども たち、老人、病気の人々、失業者、 人生での成功者 …、私たちは皆、 言葉と模範を示すことによってキリ ストを知らせる使徒でなければなり ません。神は世の中で何と良いスピ 一カーを持っていることでしょう。 神は私たち全員に言われます。全世 界に行って福音を宣べ伝えなさい¹ °。 私たちを送り出すのは神であ る!

キリストへの愛は、周囲の人々への 愛となります。私たちの召命は、愛 の行いに表すために必要な犠牲を恐 れずに、他の人々のことを考えるよ うに促します。「人々の重荷を心配 し、霊魂の救いに対する熱意を持つ ことほど、キリスト者とキリストを 愛する者を区別するしるしやマーク は他にない | 11からです。 従って、 主を知らせたいとの望みの強さは、 弟子の生活の誠実さと献身の程度を はかる指針です。霊魂に対する心配 を感じないと気づくなら、いつで も、それは私たちの愛が冷たくなっ ているからでしょう。神から離れて も平気になり、彼らの霊魂の必要性 が自分の魂に何の反応も引き起こさ ないなら、ほとんど確実に私たちは 冷淡になっています。使徒職は、キ リスト者の平凡な行いに付け加えら れる特別な何かではありません。家 族、同僚、友人に対し使徒的関心が あるのは、キリスト者の生活そのも のの当然の表れなのです。

69.3 イエスは初めに弟子たちを送り出したように、今、私たちを送り出しておられる

「何の権威によってこれらのことを 行っているのですか | 、ファリサイ 人たちはイエスに尋ねます。しかし 今は権威の源を明らかにするときで はありません。後に、その力を弟子 たちに明らかにするでしょうから。 「わたしは天と地の一切の機能を授 かっている | 12。イエスの権能は、 人間によって与えられたのではな い。むしろ、御父である神が、万物 の相続者にイエスを定められたので す(ヘブライ1・2参照)。「イエス は師であり、王であり、万物の司祭 であり、神の子の普遍的な人々の頭 である」¹³。 教会と各々のメンバー はこの力を共有します。世の中でキ リストの仕事を成し遂げるのは、す べてのキリスト信者の仕事です。こ れは、特に、洗礼で授かった召命に 加えて、もっとしっかりと従うよう に、神から特別に呼ばれた人々に当 てはまります。イエスは私たちを駆 り立てます。「人々が永遠の生命に 招かれているからです。人々は、救 いのために神から呼ばれています。 これに気づいていますか? すべての

人は神と共に生きるように呼ばれています。ですから、神なしならば、自分自身についての『神秘』を解うことに気づいていますのでいた。といるの呼びかけは、人間のない。(まりないのではないのでは、ものでは、自りないる一人ひとりの人間に、特に、身体や霊魂で苦したでは自身を向けられます」14。

イエスは、まだ誰も乗ったことの村にといいない。 がれたロバを探しに、隣の村ちを探しに、私たちを送ったように、「はロバスはロースをはいて、「はロースをはいるのでは、このでは、このでするのです。 は、主がれてもいいでするがです。 は、主がそれならでは、主がそれならですといった。 は、主がそれならいました。 は、はいがでするいでするがでするがです。 は、はいがでするがでするがでするがです。 は、主がそれならない。 は、はいのするによって行いました。 ために、主の名によって行いました。

た。自分で勝手にではなく、自分た ちの個人的な利益を何か得るために そうするのでもありません。二人の 弟子は、主が命じたように、行って 口バを見つけました。ロバを解き放 した時、持ち主は「なぜ子ロバをほ どいているのか」と言いました。彼 らは言いました。「主がお入用なの です | ¹⁶。私たちは、その名を知ら ないが、主の忠実な友人であったに 違いない、これらの弟子たちは使命 をやり遂げました。彼らは、すべて の使徒職の中で行われなければなら ないことをしました。彼らは子ロバ をイエスのところに連れて行きまし た¹⁷。 聖アンブロジオは、この出来 事を説明する時、3つの点を強調し ています。主の命令、それを行う為 の神の力、そしてそれを果たした者 の模範的な生き方と主との親しさ¹ 8。 聖ホセマリアは、この注釈に次 のように付け加えています。「聖ア ンブロジオの言葉は、見事に神の子 らに当てはまる。彼は、イエスの凱

旋のときに仕えたロバ、母ロバに繋がれた子ロバについて説明していて説明している。『主の命令がなければ、ロバーを解き放つことができなかったを解きなったがそれを解きあるとの手がそれを解きあるとのもいる。あなたも、囚われの身にありる。あなたも、囚われの身にありる。あなたも、囚われの身にありる。あなたも、囚われの身になりる。

- 1マルコ11:27-33
- 2 コロサイ1:17-20参照
- Roman Missal, Preface of Christ the King
- $_{-}^{4}$ 聖ホセマリア・エスクリバー, Letter. 8 December 1 9 4 1
- Second Vatican Council,Apostolicam actuositatim, 3
- ⁶ 聖アウグスチヌス, Commentary on Psalm 3 9
- ⁷聖ホセマリア・エスクリバー, 『鍛』, 902参照
- ⁸ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『神の朋友』. 272
- ⁹ 第 2 バチカン公会議, loc cit, 1 2
- __ マルコ16:15参照

11 聖ヨハネ・クリゾストモ, De incomprehensibili Dei natura, 6, 3

- 12 マタイ28:19
- ¹³ 第2バチカン公会議、教会憲章, 13
- 14 聖ヨハネ・パウロII世, Homily, Lisbon, 1 4 May 1 9 8 2
- __ ルカ19:29-31参照
- 16 ルカ19:33-34
- 17 ルカ19:35参照
- 18 聖アンブロジオ, Commentary on St Luke's Gospel, in loc 参照
- ¹⁹ 聖ホセマリア・エスクリバー, 『鍛』, 672

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-VIII-do/ (2025/11/21)